

No	122	事務事業評価票			所管部長等名	教育部長 北岡 博	
評価対象年度		平成23年度		所管課・係名	学校教育課 指導係		
				課長名	塚副 徹		
(Plan) 事務事業の計画							
事務事業名	学校教育活動支援事業			「主たる事業の執行状況調」における件名又は事業名	学校支援職員配置		
会計区分	一般会計						
予算の事業名	教科指導及び教材充実事業		教科指導及び教材充実事業		教科指導及び教材充実事業		
事業コード(大-中-小)	40 - 01 - 40		40 - 01 - 41		40 - 01 - 42		- - -
施策の体系 (八代市総合計画の実施計画における位置づけ)	基本目標(章)	第2章 郷土を拓く人を育むまち					
	施策の大綱(節)【政策】	①八代の未来を担うひとづくり					
	施策の展開(項)【施策】	①「生きる力」を身につけた子どもの育成					
	具体的な施策と内容	(1)学校教育の充実					
根拠法令、要綱等	なし						
実施手法 (該当欄を●)	● 全部直営		○ 一部委託		○ 全部委託		法令による実施義務 (該当欄を●) ○ 義務である ● 義務ではない
事業期間	開始年度	合併前		終了年度	未定		

(Do) 事務事業の実施									
事務事業の概要	目的	対象(誰・何を)	成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)						
	内容 (手段、手法等)	<p>八代市立の小学校、中学校、特別支援学校(八代養護学校)及び幼稚園に在籍する児童・生徒・園児</p> <p>八代市立学校・園に学校教育活動支援員を置き、不登校児童生徒への個別の対応、特別な支援が必要な児童・生徒・園児への個別の支援、学校図書館の整備等を行うことにより、「八代の未来を担うひとづくり」を目標とする。</p> <p>・学校図書館指導員配置により、学校図書館の環境整備が図られるとともに、児童生徒の読書意欲の高揚と読書習慣の定着を図る。 ・特別支援教育支援員配置により、担任と連携しながら、特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズに応じた支援を図る。 ・生徒指導員配置により、不登校生徒及び教室には入れない生徒への登校・入級の個別の支援を図る。 ・幼稚園保育指導員配置により、担任と連携しながら、集団に適應できない幼児や特別な支援が必要な幼児への指導・支援を図る。 ・看護師配置により、医師の指導のもとで、医療的ケアが必要な児童生徒の介護にあたる。</p>							
事業開始時点からこれまでの状況変化等		学校現場では、特別な支援を必要とする児童生徒の数が年々増加しており、学校からは特別支援教育支援員増員の希望が多くなってきている。そのため平成24年度は、4名増員し、配置した。しかし、全体の予算の範囲内でのやりくりであったため、不登校対策に大変効果を上げている生徒指導員の配置が1名減となった。							
コスト・成果指標の推移									
コスト	総事業費	単位	22年度決算	23年度決算	24年度予算	25年度見込	26年度見込	27年度見込	
	事業費(直接経費)	千円	65,181	73,101	76,159	80,119	81,109	82,099	
	財源内訳	国・県支出金	千円						
		使用料・手数料	千円						
		市債	千円						
		その他( )	千円						
	一般財源	千円	61,681	69,601	72,659	76,619	77,609	78,599	
概算人件費(正規職員)	千円	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500		
正規職員	従事者数	人	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	
臨時職員等従事者数		人	74.00	83.00	86.00	90.00	91.00	92.00	
成果指標 (もたらそうとする効果の数値化)	指標名	指標設定の考え方	単位	22年度実績	23年度実績	24年度見込	25年度計画	26年度計画	27年度計画
	① 不登校児童生徒数出現率	不登校児童生徒への対応に、生徒指導員の果たす役割は大きい。出現率の減少に大きく寄与していると考えられることができる。	児童生徒1000人あたりの不登校児童生徒数	12.4	10.1	10.0	9.9	9.8	9.7
	② 児童生徒一人当たりの年間貸出冊数	児童生徒が本を借りる数は、学校図書館指導員による学校図書館の整備や運営によるところが大きい。	児童生徒一人当たりの年間貸出冊数 上:小学校 下:中学校	70.4 17.8	79.3 19.9	85 22	88 24	90 26	92 28
<p>(記述欄)※数値化できない場合</p> <p>・特別支援教育支援員については、年々特別な支援を必要とする児童生徒の増加に伴い、その実情に応じて特別支援学級数を増やしていただくよう県への要望も出しているが、すべてかなうわけではない。したがって、特別支援教育支援員の果たす役割は大きい。数値化はできない。</p> <p>・幼稚園保育指導員についても、特別支援教育支援員と同様のことが言え、数値化はできない。</p> <p>・看護師配置については、その専門知識により専門的な対応がなされている。数値化はできない。</p>									

(Check) 事務事業の自己評価

事業実施の 妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結び つきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A A A  A A  A A	(現状分析等) 不登校児童生徒への個別の対応や、個に応じた特別な支援などを行 うことにより、確かな学力、豊かな心、健やかな体など「生きる力」 を身につけた子どもの育成を図り、「八代の未来を担う人づくり」の施 策大綱に合致している。 特に、特別支援教育に対する市民のニーズは大きい。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化によ り、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている		
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当 ですか(国・県・民間と競合していませ んか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない		
活動内容の 有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移し ていますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A A	(現状分析等) 不登校児童生徒出現率の減少、児童生徒一人当たりの学校図書 館貸出冊数の増加など、生徒指導員、学校図書館指導員の配置に より、その効果が確実に上がっている。また、特別支援教育支援員、 幼稚園保育指導員の配置により、特別な支援を必要とする児童・生 徒・園児は個別の支援を受けることにより、コミュニケーション能力な どの「生きる力」を身につけている。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見 直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき		
実施方法の 効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入な どにより、成果を下げずにコストを削 減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A A A A	(現状分析等) 学校職員の一人として、他の先生方と連携し、一体となって学校教 育を推進していただく必要があり、他の先生方と同様、守秘義務等 の公務員としての責務も負う。よって、市が責任を持って、その採用 の可否を決定しなければならない。したがって、民間委託をすること はできない。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業と の統合・連携によりコストの削減は可 能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である		
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方 法により、人件費の削減は可能です か	A できない B 検討の余地あり C 可能である		
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありま すか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃 止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき		

(Action) 事務事業の方向性と改革改善

今後の方向性 (該当欄を●)	<input type="radio"/> 不要(廃止) <input type="radio"/> 民間実施 <input type="radio"/> 市による(民間委託の拡大・市民等との協働等) <input type="radio"/> 市による実施(要改善) <input type="radio"/> 市による実施(現行どおり) <input checked="" type="radio"/> 市による実施(規模拡充)	(今後の方向性の理由) 児童生徒一人一人のニーズに応じた学校教育活動を行うために、学校教育活動支援事業は ぜひとも必要である。 特に、特別支援教育については、支援を要する子ども達が右肩上がりに増えていることから、 個に応じた教育を推進する必要があるため、特別支援教育支援員の増員を望む。また同様 に、不登校児童生徒への個別の対応として、生徒指導員の増員を希望する。																					
改革改善内容	今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果 [今後の改革改善の取り組み] ・特別支援教育支援員の増員+3 ・生徒指導員の増員+1 [もたらそうとする効果] ・特別な支援を必要とする児童生徒に対する個別のきめ細かな支援 ・不登校児童生徒一人一人に対する個別のきめ細かな対応による不登校児童生徒数の 減少	改革改善による期待成果 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成 果</td> <td>向 上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維 持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低 下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成 果	向 上			○	維 持				低 下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成 果	向 上			○																			
	維 持																						
	低 下																						

外部評価の実施	無	実施年度	
---------	---	------	--

決算審査特別 委員会における 意見等	(委員からの意見等)
--------------------------	------------